

第2学年 道徳学習指導案

日時 平成16年 月 日
第 校時

場所
授業者 小森 仁美
阪下 詩子

1、主題名 物を大切に 1 - (1)

2、資料名 えんぴつは なんさい

3、主題設定の理由

(1) 児童の実態と指導の意図

1学期から、自分の持ち物には名前を書いて大切に使うよう指導してきた結果、落とし物が持ち主の手に戻るようになってきた。鉛筆を無駄にしないよう、芯がまだ残っているうちは削らないようにしている児童もいる。反面、鉛筆や消しゴムなど家にたくさん持っているようなものは、まだ使える大きさのものでも新しいものと取り替えてしまい、使えなくなるまで使いきる児童は少ない。児童の中には、遊び道具を作るためにわざと消しゴムの消しくずを作ったり、のりを机に塗ったりして無駄づかいをしていた児童、ふざけ半分で友だちのものをなくしたり壊したりした児童もいる。地域がら、普段自分でお金を払って物を買う経験が少ないこともあり、お金や物の価値を理解できていない。遊びの中では、興味がなくなったり必要がなくなったりしたもの(カードなど)を、友だち同士もらったりあげたりしたことのある児童もいる。

このような実態から、自分のものも友だちのものも大切に扱うことのできる子、「もったいない」「ありがたい」という気持ちで物を大切にできる子を目指して指導を重ねたいと考えている。

(2) ねらいとする価値について

鉛筆や消しゴムなどは、確かに消耗品ではあるが、安価で手に入りやすいことから粗末に扱いがちである。また、日常生活が様々なものの命を頂いて成り立っていることを忘れ、ものへの感謝の気持ちや、買って頂いたことへの感謝の気持ちも薄いのではないだろうか。

本資料では、電動鉛筆削りでおもしろがって鉛筆を削っていたたかしが、おじいさんから「鉛筆は71歳」と聞いてその価値の重さに気付く。本時は、普段何気なく物を無駄に使ったり粗末に扱ったりしている子どもたちに、たかしの行動や気持ちに共感させ、考えさせたい。その中で、鉛筆が自分の手元に来るまでの背景を知り、そのもの本来の使い方を使うことが大切だということに気付かせたい。

(3) 金銭教育とのつながり

夏休みに各家庭で行っていただいた金銭教育の取り組みでは、節電・節水などと並んで、自分の持ち物の整理整頓や管理、必要かどうかよく考えてから買い物をするといった内容を取り挙げた家庭がたくさんあった。ものやお金を大切にすることは、高価なものだからとか興味があるから大切にすることはなく、本当に必要なものだからこそ購入し、感謝の気持ちで、愛着を感じて長く使うことだと考えている。家庭とも連携をとりながら、身の周りのものへの感謝の気持ちを育て、大切に使うことを指導することが、自分の生活に必要なものを正しく判断し選ぶことができる子どもの育成につながると考える。

4、本時のねらい

電動鉛筆削りで面白がって鉛筆を削っていたたかしが、おじいさんから鉛筆ができるまでの話を聞き「鉛筆は71歳」と知って鉛筆の価値に気付く姿を通して、物に対する感謝の気持ちを持って大切に最後まで使おうとする気持ちを育てる。

5、本時の展開

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	<p>教室の落とし物を見てどんなことを思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだ使えるのにもったいない。 ・名前が書かれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落とし物（消しゴム）や、「鉛筆さんありがとうの箱」の中の長い鉛筆などを見せる。
展開 前 段	<p>資料「えんぴつは なんさい」を読みながら進める。</p> <p>たかしくんは、鉛筆を削っているときどんな気持ちだったのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんどん削れるから楽しいな。 ・面白いなあ。 ・ぼくも、削れていくのが楽しくて同じように削ったことがある。 <p>たかしくんは、おじいちゃんから鉛筆ができるまでの話を聞いて、どんなことを思ったのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆ができるまでには71年もかかるんだなあ。 ・おじいちゃんより年をとった木からできるんだなあ。 ・長い時間をかけて育った木を使っているから、無駄に使ってはだめだなあ。 ・遊びに使って悪かったなあ。 <p>たかしくんは、どんな気持ちで短くなった鉛筆をみつめていたのかな。 (えんぴつさん、)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちょっとむだに削りすぎてごめんね。 ・これからは大切に使うよ。 ・おもちゃにしないで、最後まで勉強に使うよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おもしろいように」「どンドン」という言葉から、鉛筆を無駄に削っていることに気付かないほど夢中になって楽しんでいるたかしの気持ちに共感させる。 <p>* 71才ってどういうこと？ * みんなのおじいちゃんおばあちゃんは何才？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たかしの気持ちになって考えるために、ワークシート（吹き出し）を使って気持ちを書かせる。 <p>* たかしくんは、これからはどんな気持ちで鉛筆を使うと思いますか。</p>
展開 後 段	<p>みなさんが、何か大切に使っているものはありますか。それは、どのような気持ちで大切にしているのですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆に限らず他の学用品などについても意見が出るように、事前調査から意図的に指名する。
終末	<p>説話</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ものを大切にしようという気持ちを持たせるために、ものの命の大切さを感じ愛着を持って使ってみえる方の思いを語っていただく。